

みどりの杜俳句会

ひしひしと生きたる日々や梅雨深し

佐山けさ子

鉄線花描くや裏より山の風

飯野はつ志

土手の竹に絡らまりむらさき鉄線花

西 づる

青梅雨や明暗のある木々の枝

梅沢きくえ

出窓隅とまる親子の燕かな

田村 好子

窓越しに強く揺れ合ふ青葉かな

今村千鶴子

八つ頭水盤に置き芽の伸ぶる

鈴木 啓子

畦川のせせらく音や花菖蒲

木村 弘子

蒸し新じゃが皮の弾くる良き香あり

野口利江子

雨止み間庭の隅より草むしる

関口 侑子

夜の雷鳴激し思はず手を合す

吉田 愛子

梅雨の朝庭木枝伸び盛り上がる

高橋 ツ子

老鶯の声さだかなり雨の中

岡部富美子

川音のまじり河鹿の声続く

鯨井 和枝

川向かう鳴き合い止まぬ河鹿かな

土屋 厚子

境内の樹下に掃き寄せ夏落葉

初雁 功子

歩行リハ五弁とくだみ探しつつ

大竹 祐也

鳥除け寒冷紗掛け黒すいか

小宮 勉

溪筋の夕波ひかり初河鹿

山田 美子



人権シリーズ

406

『ある校長先生の教え』

これは、四十数年前、ある小学校の校長先生から聞いた話です。その学校の教育方針のひとつに、「凡事徹底」という言葉がありました。児童にとつては少し難しい言葉かもしれませんが、その意味は簡単です。それは、何でもないような当たり前のことを当たり前前に行うことだそうです。

例えば、教室のカーテンを開けたり閉めたりする、掃除は全員できれいにする、決められたことはしっかりと守る、相手を無視しない、友だちと仲良くしいじめをしなない、あいさつをする等で、これを学校の取り組むべき目標としました。

要するに、考え方や行動などが中途半端でなくひとつの方針で貫かれていることが重要なのです。つまり、このことのもっとも大きなメリットは、何事でも継続ができ、自信が持てるということです。

私は、就職したばかりの若い人たちに「凡事徹底」と言っても、すんなりとは伝わらないと思います。なぜなら、若い世代には聞き慣れない言葉であるからです。

しかし、職場や組織の人が物事を確実に成し遂げるには、当たり前前のが当たり前前に行えるか、そのことが徹底してできるかにかかっていると思います。

校長先生の教えは、広い意味で、差別をなくすことにつながっているのではないかと私は思います。

東秩父村老人クラブ連合会長

若林

全

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 8月25日(金) 午後1時30分～

場所 役場1階中会議室

問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

